

新資料

茂螺湾から魚類化石

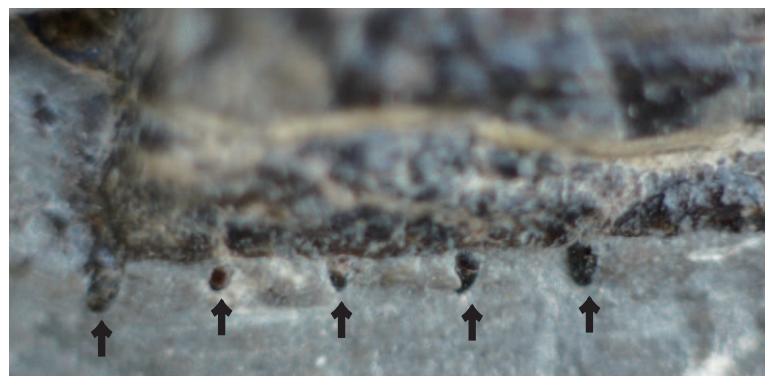
茂螺湾から、新しく魚類の化石がみつかりました。

5月7日、矢吹勝家さんが雪解けの水がおさまった茂螺湾川で転石として発見。うすっぺらい骨の断面が見え、表面の石を取り除いたところ、魚類頭骨特有の薄い骨が重なり、小さい歯が確認されました。

地層は、歯のあるヒゲクジラやベヘモトプスが発見されている「茂螺湾層上部」。およそ2,500万年前。当時は、北太平洋に大規模な湧昇流（深層水がわき上がる現象）が新しく出現し、海の生物が急速に多様化した時代と考えられています。鯨類も生態ピラミッドの頂点に位置するものとして爆発的に種類が増え、茂螺湾のクジラ化石はその反映だと捉えています。魚類も現在につづく種類が出現したはずです。今回の魚類化石も、その種類や現生種との関係を調べることにより、当時の海の様子がよりくわしくわかる可能性があります。

しかし、魚類の頭骨はうすい骨がたくさん集まってできており、慎重なクリーニング作業が必要です。種類を決めるのにはしばらく時間がかかりそうです。

化石工房で公開しています。



左：径20cmほどの岩塊。黒く見えるのが骨化石。
上：1mmより細かい歯（↑の上）がならぶ顎の骨。

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよる

No. 104

2009年 5月20日発行

089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 電話 0156-25-9100 ファックス25-9101

Eメール staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp> (博物館だよりpdf版あり)

大型連休

大型連休，工房にぎわう

話題の多かった5月の連休。足寄動物化石博物館はほぼ例年並みの混雑でした。

来館者に人気だったのは、化石工房フォストリーでの「化石体験」。平成19年度からはじめた「ミニ発掘」と開館以来の「レプリカづくり」を目的に何度目かの来館，という方も多く、家族で化石を楽しむ姿が工房中に見られました。

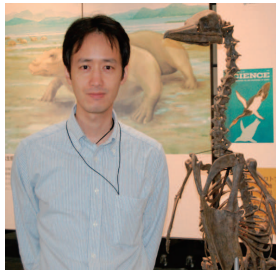


スタッフ

博物館に新しい研究員

4月から安藤達郎さんが研究員として活躍しています。

安藤さんは、千歳市出身。北海道大学大学院で、魚竜を研究した(修士課程まで)あと、ニュージーランドのオタゴ大学で、最古のペンギン化石を研究し博士号を取得。おなじく海へ帰った脊椎動物として、クジラの進化をふくめて研究を展開したいと張り切っています。海外からの来館者向けの展示解説や、webサイトの管理などを担当していきます。



化石教室

第2回を釧路市博物館と合同で開催することになりました。それにもなって第1回(5月31日)に螺湾へ、第2回(6月28日)に白糠町右股へ、と実施場所を入れかえます。くわしい内容は、参加登録者にお送りするニュースを参照。

休館日 || 6月 2日 9日 16日 23日 30日の火曜日

博物館の動き 6月 (館の行事や職員の動き、来館団体、など)

5月		11~12日	化石研究会 (横浜市;澤村学芸員)
31日(日)	あしよろ化石教室第1回 博物館と螺湾の貝化石	17日	士幌高校のみなさん来館
6月		25日	鶴居村小学校合同修学旅行の みなさん来館
4日	遠軽町高齢者学級のみなさん来館	26~28日	日本古生物学会年会 (千葉市;安藤研究員)
4~5日	北海道博物館大会 (富良野市;安藤研究員)	28日(日)	あしよろ化石教室第2回